

科目 9

科目名	技術経営論 Management of Technology		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・月・5 限			
担当教員名	伊藤 龍史	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>本講義の目的は、技術（テクノロジー）のマネジメントに関する専門的知識を身につけることにある。近年の経営実務においては、重要な経営資源の1つとして技術に対する注目度が高まってきている。その一方で、技術のマネジメントは、技術とは何か、技術はそもそもマネジメント可能なのか、技術をどう価値に変換することができるのか、等々の難しい問題をはらむものでもある。そのため、実践的な技術のマネジメントにあたっては、慎重かつ体系化されたアカデミックな理解が不可欠である。本講義では、この「技術に焦点を当てた経営学である「技術経営論（MOT: Management of Technology）」を理解し、専門的知識を習得することを目指す。</p> <p><到達目標></p> <p>技術経営論には、技術にもとづく価値創造、組織能力、製品設計、イノベーション、技術経営における組織構造といった各論が含まれる。これらに関して、偏りなく知識を身につけ、さらには思考や分析等に活かし得る力を習得することを到達目標とする。</p> <p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1 回目：ガイダンス、イントロダクション 第1回目では主に、本講義の概略を紹介するとともに、MOT とは何かについて明らかにする。</p> <p>2 回目：MOT という文脈 第2回目では主に、MOT がはらむ不確実性がもたらす難しさと、MOT における方法論を説明する。</p> <p>3 回目：MOT と価値創造 第3回目では主に、MOT における付加価値の創造を説明し、さらには価値創造と価値獲得という二つの側面についても説明する。</p> <p>4 回目：MOT における組織能力の役割 第4回目では主に、組織能力の定義、および組織能力を構築する能力について説明する。</p> <p>5 回目：製品アーキテクチャ 第5回目では主に、MOT における製品アーキテクチャの重要性を指摘した上で、製品アーキテクチャのタイプであるモジュラー型とインテグラル型を説明する。</p> <p>6 回目：コア技術戦略 第6回目では主に、技術開発のジレンマとコア技術戦略のプロセスについて説明し、組織学習の重要性を示す。</p> <p>7 回目：プラットフォーム戦略 第7回目では主に、プラットフォーム戦略について説明する。特に、プラットフォーム戦略におけるマネジメント、およびプラットフォーム戦略の類型化と競争力を説明する。</p> <p>8 回目：イノベーション 第8回目では主に、イノベーションを扱う。特にイノベーションの代表的タイプである革新的イノベーションと改善的イノベーションを説明し、さらには破壊的イノベーションにおけるジレンマについ</p>				

ても説明する。また、探索と活用という2つの組織学習についても紹介する。

9回目：組織デザイン

第9回目では主に、組織デザイン（組織の設計）を説明する。特に、組織デザインと情報プロセスの関係、およびプロジェクト重視組織と機能重視組織の区別について説明する。

10回目：組織プロセスのマネジメント

第10回目では主に、組織プロセスに焦点を当てて説明する。具体的には、技術・商品開発の組織プロセス、コンカレント・エンジニアリング、およびフロント・ローディングについて取り上げる。また、組織プロセス能力の重要性についても示す。

11回目：プロジェクト知識のマネジメント

第11回目では主に、プロジェクト知識のマネジメントについて説明する。プロジェクト知識とは何かについて触れた上で、プロジェクト連鎖を通じたプロジェクト知識の蓄積と共有について説明する。

12回目：顧客価値創造のための事業システム

第12回目では主に、顧客価値創造に焦点を当てる。特に、顧客価値と価値獲得について説明し、さらにはマス・カスタマイゼーションについても紹介する。

13回目：事業システムのデザインとマネジメント

第13回目では主に、事業システムのデザインとマネジメントを取り上げる。事業システムの統合と分業、メイク・オア・バイ（作るか買うか）の意思決定、およびセル・オア・ノットセル（売るか売らないか）の意思決定について説明する。

14回目：企業間ネットワークとマネジメント

第14回目では主に、企業間ネットワークの構築および複数の企業間でのマネジメントの方法について説明する。

15回目：MOTの理論と実践の架橋に向けて

第15回目では主に、MOTの理論と実践を架橋する上でのポイントを説明する。具体的には、組織能力の強化の必要性、およびMOTの実践における鍵となる要因の活用について指摘する。

16回目：期末試験

<講義の進め方>

あらかじめ、毎回の授業で学習するテキストの該当箇所を示しておく。各授業においては、講義を行いながら、必要に応じて、テキスト内で触れられていない追加の知識などを示す。また、各回の内容に関連して議論を促す場合もある。

<事前事後学修内容>

毎回の講義で取り上げるテキスト等の該当部分に目を通しておくこと。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には、およそ計4時間かかると想定される。詳細については講義時に指示する。

<教科書及び教材>

延岡健太郎（2006）『マネジメント・テキスト MOT [技術経営] 入門』日本経済新聞社。

<参考書>

原田勉（2014）『イノベーション戦略の論理』中公新書。

ハーバード・ビジネス・レビューに掲載されている MOT 関連の論文。

<p><成績評価方法></p> <p>期末レポートで評価する（100パーセント）</p> <p>欠席6回以上は成績評価しない</p> <p><課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法></p> <p>Teams等にて、全体に対するフィードバックを行う</p>
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>
<p><ディプロマポリシーとの関連></p> <p>基礎知識の学修に該当</p>
<p><DVDによる視聴></p> <p>可</p>
<p><オフィスアワー></p> <p>なし（事業創造大学院大学には講義時間前後しかいないため、質問や相談等がある場合は、伊藤のメールアドレスへ連絡するようお願いいたします）</p>
<p><その他></p> <p>特になし</p>